

第 4 回委員会の振り返り

【第 4 回委員会での主な意見】

園章

- 子どもたちが見て、すぐにわかるもの、また、子どもたちが園章を自分たちで書けるぐらいわかりやすいもの、チューリップの中がごちゃごちゃしていないものを選んだ。
- 園章であるので、シンプルイズベストで、チューリップの中に何が書いているかが明確であり、子どもが小さいので、あまり暗いものでない方がいいのではないか、また、ごちゃごちゃしていないものがよいのではないかと思った。ただ、園章の使用例を見て、このように飾られると考えると、あまりイラスト的なものでない方が、公共施設、教育施設にはふさわしいのではないかと思った。
- 園章は旗にしたり、園の玄関につけたり、そのような使い方をするので、あくまでゆるキャラみたいになるのは、まずいのではないか。応募作品で、目があって鼻があって笑っているデザインのものもあるが、これは、ゆるキャラならよいが、やはり、旗にするなどして使うのであれば、顔をデザインした園章は省いた方がよいのではないかと思い、選ばなかった。また、「中央」や「こども」の文字が入ったデザインの方が、使いやすいのではないかと思い、そのようなものを選んだ。
- チューリップの外枠を活かして、なるべくシンプルなものがよいと思った。また、「おひさまこども園」の名前がついたので、おひさまのような明るく楽しいイメージのものがよいのではないかと思い選んだ。
- シンボリックかつ、斬新さとおもしろさと、旗になることを考え選んだ。シンプルなものもよいが、デザイン性も重視して選んだ。
- シンプルなものがよいと思った。23番のチューリップの中のデザインは、市の他のシンボルマークに同じようなものがある。
- 旗や園の玄関に使われることを想定して、一度、遠くからひいて見たらどうか。大人と子どもの視線の位置は違うので、子どもがその園章を見上げたときにどんな風に見えるのかということも考えて、選んでいきたい。

園歌

●園名がおひさまなので、「たいよう」や「あかるい」、「かがやき」、「きらきら」などの歌詞が入っている作品が多いが、特に、「草津」をイメージさせるような歌詞、「しゅくばまち」や「びわこ」などが入った作品がよいと思い選んだ。

●園歌を園児が歌うためには、先生が教えることになるので、先生が教えやすいものがよいと思った。簡単だけれども、その歌詞の意味をしっかりと園児に教えられるような作品がよいのではないかと思った。

●子どもが歌いやすいもの、歌っていてあたたかいなと思える作品がよいと思った。おひさまこども園なので、おひさまのもとで笑顔の絶えない子どもたちの成長を感じられる歌詞がいいと思い選んだ。

●地域の「くさつ」や「びわこ」、「ひえい」などの歌詞が入った作品がよいと思った。また、園歌と園章はつながっていた方がよいのではないかと思ったので、「チューリップ」や「たいよう」などを用いた作品も選んだ。

●こども園の園歌ということで、2歳児くらいから園歌が歌われることを考えると、年齢層にふさわしい歌詞がよいと思った。「おはようさん」や、「なかよしこよし」という歌詞は、普段使われていない言葉ではないか。これから20年、30年先も使われていく園歌で、あまり使われていない言葉を入れるのはふさわしくないのではないかと思う。いま、新しく感じるものでも、20年先には、古いものになってくるので、そのあたりを見込んで選ぶべきである。また、地域の歴史を感じる歌詞は入っていた方が、どこの園かわかりやすいので、よいのではないかと思った。

●子どもが歌いやすく、わかりやすいものがよいと思った。また、園章のチューリップに込められた思い、『あか・しろ・きいろ どの花みてもきれいだな』のように、一人ひとりの個性を大切にしたい教育を進めていくという思いを含んだような作品を選んだ。

●「ひえい」という歌詞にすごくひっかかった。

●「ひえいざん」は見えるが、「ひらさん」は少し遠いので、ふさわしくないのではないか。